

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成19年8月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070200934
法人名	社会福祉法人いのかわ会
事業所名	ケアホーム『家族の家』浜川
所在地	群馬県高崎市浜川町1314番地 (電話) 027-340-1070

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年7月25日

## 【情報提供票より】19年7月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1ユニットユニット	利用定員数計	9人 人
職員数	10 人	常勤6人 兼務	非常勤 4人

### (2) 建物概要

建物構造	(鉄骨)造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) <del>無</del>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <del>無</del>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

### (4) 利用者の概要(7月4日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	75歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	いたがきクリニック 第一病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と全職員は利用者一人ひとりがその人らしく生活ができるように最大限に配慮し、日々をどう過ごしてもらうことが良いか常に話し合いながら実践をしている。機能低下に伴いどうしたら利用者の負担を軽くし、排泄、入浴介助等ができるのか、食事は原形をとどめ、配膳をし本人に見てもらい目の前で食べやすい形にしている。また、水分は利用者一人ひとりに合わせて工夫をし水分摂取ができるように配慮している。地域との交流は運営推進会議の機会を通して、ホームの状況を報告し、意見や要望を聞き運営に反映させるようにしている。地域の連携を深めて協力体制を強化し利用者の生活を地域と共に支えられるように前向きに取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	廊下やデイルームの照明の照度を見直し、もう少し明るくしてほしいに対しては、電球を取り替えるようにした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	会議でサービス評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価の項目毎に話し合いを行い作成をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議において地域の方からの意見により、管理者が「生き生きサロン」の参加者に「認知症の理解」を深めるための講義をすることになった。生き生きサロンには利用者と職員が定期的に参加している。市の担当者は運営推進会議に参加し助言や参加者に介護保険の説明等している。『ホーム通信』を市に送っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に何でも言ってもらえる雰囲気づくりに配慮している。運営推進会議に参加してもらい意見や要望を聞く、ノートを窓口に設置するなど工夫をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議に地域の方の参加をしてもらっている。散歩時に挨拶を交わす、窓から地域の方と話す、生き生きサロンに利用者と職員が参加するなど、地域との連携を図っている。

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のその人らしい暮らしを続けるための日々を支援する、運営理念を4項目掲げている。地域密着型サービスとしての理念の見直しがなされていない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援していくサービスとして、地域を意識した運営理念を職員と話し合うようにしてはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解をしてもらうようにしている。また、会議や関わりの振り返りの時に理念に必ず触れ、管理者と職員は共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地域の方や近隣の高校生に、認知症の話をする、近隣の高校生がボランティアに来てくれる、生き生きサロンに利用者と職員が参加する等、地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催をしており、ホーム側から状況報告等を行い、参加者から質問や意見、情報提供が活発に行なわれ、行政の立場からも応えてもらうなどの協力が得られている。生き生きサロン参加や講話も会議の中での意見である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている。『ホーム通信』を送り近況報告をしており、窓口には時々訪れる等している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話で暮らしぶりや健康状態等の報告を行っている。定期的にホーム便りを発行し送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言いやすい雰囲気づくりに心がけている。いつでも意見が聞けるように、窓口にノートを置くことや面会時に暮らしぶりを報告し、意見や要望等を聞くようにしている。家族代表者に運営推進会議に参加してもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員の移動がなく固定化している。担当制をとり、利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を作っており、積極的に参加をさせている。資格取得に積極的に努めるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、同業者との交流や連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談時には、訪問したり、ホームに遊びに来てもらって面談している。入居待ちの方には、馴染めるよう家族と相談し宿泊も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に「常に共にある」という項目があり、理念に基づいて生活をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情から察し、それとなく確認するようにしている。家族から情報も得るようにしている。生家に行きたいという思いに添って支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成の前に、家族の意見や要望について確認をする話し合いの機会を持ち反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回職員会議で話し合い、評価をして見直しをしている。日々の生活状態を毎日のミーティングで情報交換を行いチェックし、随時見直しを行ない、家族と相談をしながら現状に即した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合によって通院介助、希望の美容院、買い物、利用者の思いに添って行きたい所等へ柔軟な支援をしている。また、家族の希望に応じ一緒に宿泊してもらうこともある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。また、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、家族の都合により職員が代行するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、事業所が対応し得るケアについて説明をし、家族と密に話し合いを行い、本人・家族が安心できるように支援をする方針でいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で細心の注意を払い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般を利用者の一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の意思に添って支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりへの参加は難しい状態になっているが、献立作成は利用者と相談しながら決めるようにしている。職員と利用者は同じテーブルを囲んで介助しながら、楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。食事原形は本人が見てから、食べやすく形態を変えるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者の意思を確認し入っ ていただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者にお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、利用者の気分や希望に応じて、外気浴、散歩、花見等に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを認識しており、日中は鍵をかけず自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡マニュアルを作成しており、年2回利用者とともに避難誘導訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音、ご飯の炊ける匂い、食事を作る等がホールから見え家庭を感じさせる。古代ヒノキを使った浴槽やトイレも生活リハビリを意識した手すりが設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、家族写真、テーブル以外にも、それぞれの利用者の好みや馴染みの物などが生活スタイルに合わせて用意されている。		